



2024年度 第1回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2024年5月～6月)のポイント

(1) 概要：

シラスの漁獲量は多くの海域で平年を下回る。

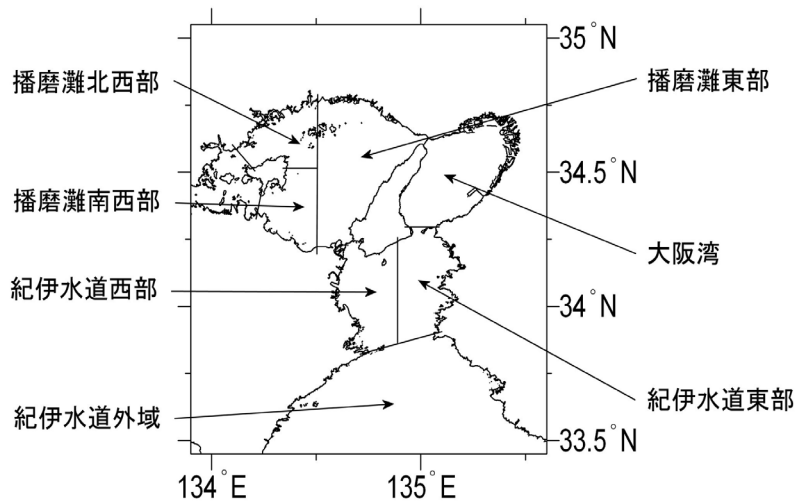
(2) 海域別：

紀伊水道東部・大阪湾・播磨灘東部のシラスは不漁であった前年並み。

紀伊水道西部のシラスは不漁であった前年、平年を上回る。

播磨灘南西部のシラスは前年同様、平年並み。

播磨灘北西部のシラスは好漁であった前年、平年を下回る。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：浮魚資源部（廿日市） 山下、河野

電話：0829-55-0666、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>

2024年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2024年5月～6月）

シラス（本年春季発生群）

紀伊水道東部・大阪湾・播磨灘東部のシラスは不漁であった2023年並み。

紀伊水道西部のシラスは不漁であった2023年、平年を上回る。

播磨灘南西部のシラスは2023年同様、平年並み。

播磨灘北西部のシラスは好漁であった2023年、平年を下回る。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の代表値として予報を作成した。2013年～2022年の平均値を平年値とした（図1～図3）。

2. 漁況の経過（2023年1月～2024年4月）及び今後の見通し（2024年5月～6月）についての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では2023年の年間漁獲量は前年の87%、平年の77%であった。2023年5月～6月の漁獲量は前年の48%、平年の36%であった。2024年1月～3月は前年の72%、平年の107%であった。紀伊水道外域の和歌山県側では2024年1月～3月は前年の65%、平年の18%であった。

紀伊水道西部（徳島県側）では2023年の年間漁獲量は前年の92%、平年の93%であった。2023年5月～6月の漁獲量は前年の50%、平年の73%であった。

大阪湾（大阪府）では2023年の年間漁獲量は前年の165%、平年の127%であった。2023年5月～6月の漁獲量は前年の81%、平年の68%であった。

大阪湾（兵庫県）では2023年の年間漁獲量は前年の124%、平年の113%であった。2023年5月～6月の漁獲量は前年の73%、平年の68%であった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2023年の年間漁獲量は前年の83%、平年の93%であった。2023年5月～6月の漁獲量は前年の63%、平年の78%であった。

播磨灘南西部（香川県側）では2023年の年間漁獲量は前年の151%、平年の107%であった。2023年5月～6月の漁獲量は前年の158%、平年の111%であった。

播磨灘北西部（岡山県側）では2023年の年間漁獲量は前年の218%、平年の128%であった。2023年5月～6月の漁獲量は前年の148%、平年の125%であった。

2024年4月15日現在、瀬戸内海東部海域において本格的なカタクチイワシシラスの漁獲は始まっていない。

(2) 日向灘～紀伊水道・大阪湾での卵稚仔調査結果

水産資源研究所（横浜、廿日市）がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況に関する報告によると、2024年1月～3月には日向灘～紀伊水道外域で産卵が認められ、合計産卵量は14兆粒（前年比134%、平年比57%）であった。

和歌山県水産試験場と徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課が2024年2月～3月に行った定線調査では、紀伊水道外域での卵密度は2月に0.4粒/m²（前年比3%、平年比11%）、3月に3.3粒/m²（前年比27%、平年比67%）であった。仔魚は2月に採集されず（前年0.6個体/m²、平年0.9個体/m²）、3月に0.7個体/m²（前年採集なし、平年比40%）であった。紀伊水道で卵は2月に採集されず（前年採集なし、平年0.1粒/m²）、3月に14.5粒/m²（前年比2,690%、平年比1,900%）であった。仔魚は2月に採集されず（前年、平年とも採集なし）、3月に0.3個体/m²（前年採集なし、平年比34%）であった。なお、3月の卵密度は紀伊水道内で差がみられ、東部は低水準であったが、西部では平年を大きく上回った。

大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センターが2024年4月に大阪湾で行った定線調査では、カタクチイワシ卵の平均採集数は2.7粒/曳網（前年比8%、平年比8%）であり、仔魚は採集されなかった。

(3) 黒潮流路の現況と今後の予測

4月18日現在、シラスの来遊に影響を与える黒潮は潮岬沖で著しく離岸し、大蛇行流路となっている。潮岬以西の各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産研究・教育機構運用の海況予測システム FRA-ROMS II による予測結果、および最近の黒潮流路の推移等を併せて考慮すると、5月～6月における紀伊水道沖付近の黒潮は概ね離岸傾向で推移すると予測される。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に準じた。

(4) シラス漁況（本年春季発生群）の見通し

紀伊水道の春季シラス漁は主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、及び外海からの輸送条件に依存する。本漁期の後半には紀伊水道から大阪湾での産卵に由来するシラスが漁獲される。日向灘～紀伊水道外域の1月～3月の合計産卵量は平年を下回った。また4月18日現在、黒潮は潮岬沖で著しく離岸しており、5月～6月の黒潮流路の変動予測から、外海からの輸送条件は悪いと考えられる。4月の紀伊水道外域における漁況は低調であり、紀伊水道では本格的なカタクチイワシシラスの漁獲は始まっていない。加えて大阪湾での産卵量も少ないことから、紀伊水道東部では不漁であった2023年並みと予測される。例年、本漁期を通して漁獲のある紀伊水道西部においてもシラスの外海からの輸送条件は悪いと考えられる。しかしながら、紀伊水道西部における産卵状況から判断すると西部では不漁であった2023年、平年を上回ると予測される。

大阪湾の春季シラス漁は主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道や紀伊水道外域でのシラス現存量、及び外海からの輸送条件に依存する。日向灘～紀伊水道外域の1月～3月の合計産卵量は平年を下回った。また4月18日現在、黒潮は潮岬沖で著しく離岸しており、5月～6月の黒潮流路の変動予測から、外海からの輸送条件は悪いと考えられる。大阪湾での産卵状況も考慮すると、大阪湾では不漁であった2023年並みと予測される。

播磨灘の春季シラス漁も主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道や紀伊水道外域でのシラス現存量、及び外海からの輸送条件に依存する。上述の産卵状況、漁況、及び外海からの輸送条件から判断すると播磨灘東部では不漁であった2023年並みと予測される。播磨灘南西部では、2023年と環境要因に大きな違いがみられないことから、2023年と同様に平年並みと予測される。播磨灘北西部では好漁であった2023年、平年を下回ると予測される。

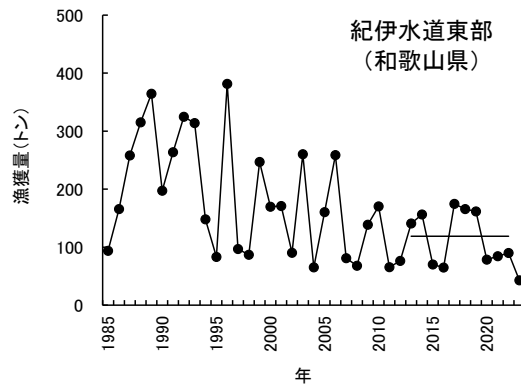
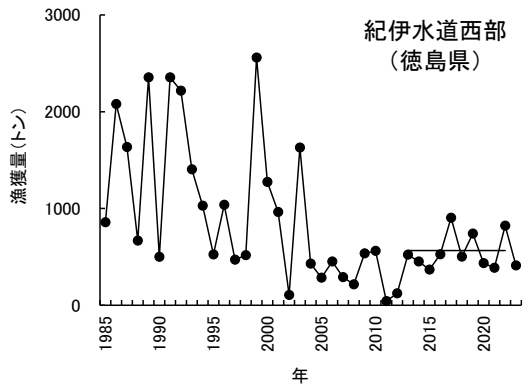


図1 紀伊水道西部（徳島県側）、及び紀伊水道東部（和歌山県側）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

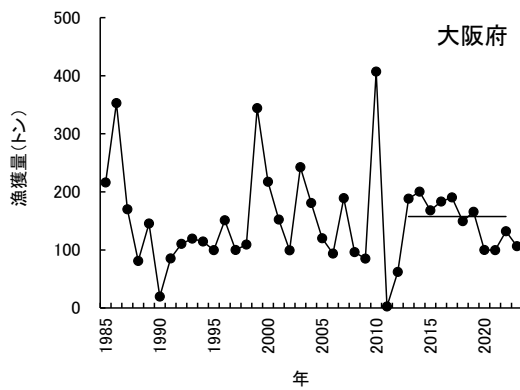
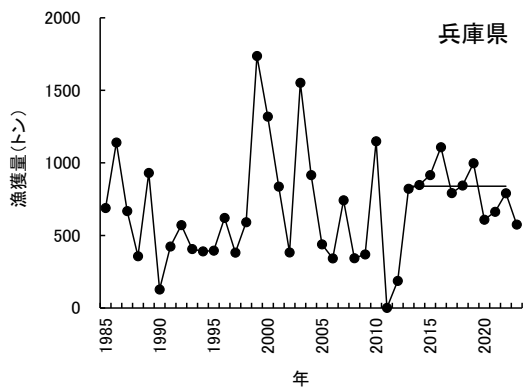


図2 大阪湾の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

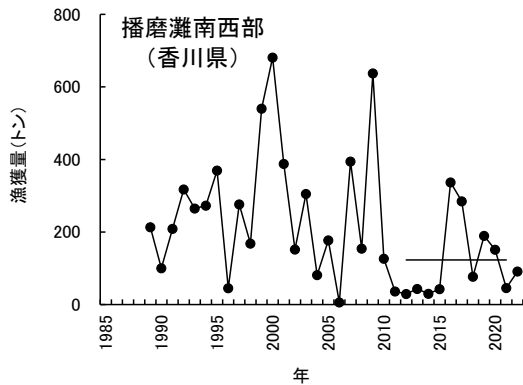
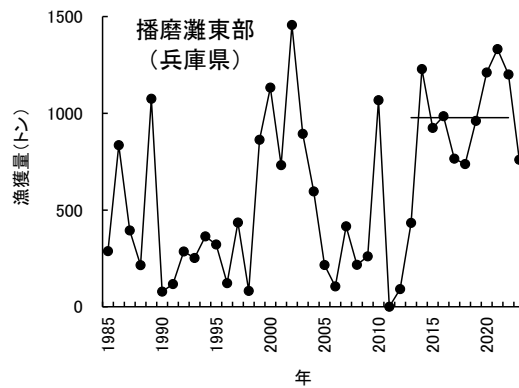
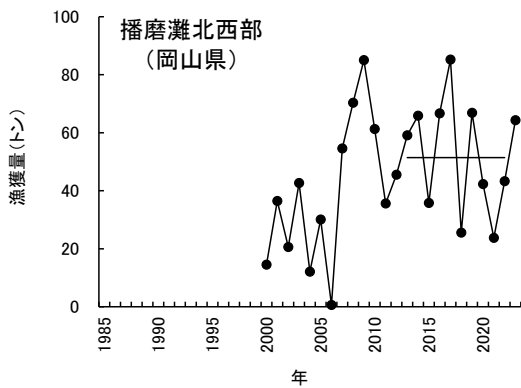


図3 播磨灘北西部（岡山県側）の標本船における5月～6月のシラス漁獲量、播磨灘東部（兵庫県側）、及び播磨灘南西部（香川県側）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

参 画 機 関

<p>和歌山県水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター</p> <p>兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター</p> <p>岡山県農林水産総合センター水産研究所</p>	<p>香川県水産試験場</p> <p>徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課</p> <p>(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所</p>
--	---